

## 2231003 安達智将

私が今回の英国講座で感じたことは、四つある。一つは、国家としての宗教の違いだ。日本では、神道や仏教、儒教などが誕生、または伝来しており、それに基づいた神社やお寺などが数多くある。しかしながら英国の場合、約紀元後六百年からキリスト教が根付いており、キリスト教によって国家の統制をしていたため、キリスト教の異なった宗派が国内に入っ  
てはいたが、キリスト教以外の宗教はあまり入ってきてはいなかったため、宗教的建造物多くがキリスト教の建物であるという特徴がある。そして、現在の英国の宗教の割合を見ても、キリスト教が過半数以上を占めており、多くの人が無宗教と答える日本とは大きく異なっている。また、英国の大学はほとんどすべてが国公立であり、どの大学もキリスト教と深い関係があるという特徴がある。このように、私はカンタベリー大聖堂を代表とする教会やドーヴァー城の中にある礼拝堂を見て、英国の国家とキリスト教は切っても切り離せないような関係であることを感じる事ができた。

二つ目は、英国の戦争についてだ。英国は中世の時は長い間フランスと戦争しており、近代になってからも第一次世界大戦や第二次世界大戦など、様々な国と多くの期間戦争してきた歴史がある。実際に訪れたドーヴァー城は英国の戦争の歴史に多く関わっている。例として、十三世紀にはフランスとの戦争における重要な拠点であり、近代になってからも第一次世界大戦や第二次世界大戦中には、野戦病院や大砲が設置されていた。また、ドーヴァー城内にある戦争博物館の展示品によって数々の英国による戦争の歴史を見ることができた。このような体験を通じて、どんな時代でも戦争はとても醜いものであり、起こしてはならないものであると再認識することができた。

三つ目は、歴史についてだ。イギリスには、数多くの歴史的建造物や遺物が存在する。代表するものとして、ストーンヘンジやローマ時代のモザイク画や遺物などがある。私は、カンタベリーにローマ博物館で当時の人々の生活様式や日用品などを見て学ぶことができた。さらに、大英博物館では、イギリスだけではなく、様々な国の壁画や像や遺物を見た。特に興味深かったのが、エジプトの展示であり、ロゼッタ・ストーンやアメンヘテプ三世の像、他にも、エジプトの先王朝からローマの属州であった時代まで幅広い遺物を見ることができ、様々なことを学ぶことができた。また、ロンドン塔では、アンブリーンが処刑された場所やブラッディタワーなど世界史で習った有名な人物が生活していた場所を見ることができ、イギリス王家について理解を深めることができた。他にも、CCCUのingate 博士との会話の中でわずかしら理解することができなかったが、ローマの水道についてなど古代ローマについて話していただき、理解を深めるのと同時に、新たに興味を持つことができた。今回の英国講座で私は、イギリスで多くの歴史や考古学を学びたいという意欲が生まれた。

四つ目は、英国の文化についてだ。食文化では、私は、パブや食事マナー講座を受けて、日本とは異なる文化を感じる事ができた。例として、パブでは席に座ってからカウンター

の方へ注文し、そのたびに会計をするという日本ではあまり見られないような文化がある。また、飲食店では必ずと言っていいほどフライドポテトなどのチップスが多くあり、日本では体験できないような食生活を体験することができた。食事マナー講座では、日本のように多くの食品がまとめて出るのではなく、一品ずつ出されるという方式を体験した。また、主観的ではあるが、英国人は日本人と比べて積極的にコミュニケーションを取っていると感じた。その理由として、スーパーマーケットの会計の際に世間話をしているのを多く目撃し、私自身も初めてあった人が気兼ねなく話しかけてきてくれたり、挨拶をしたら返してくれたりするなど多くのコミュニケーションの場に遭遇しているからである。近年の日本では、日常のコミュニケーションが少なくなっていると感じる。なので、日本人は些細なことでもコミュニケーションを取ることが必要であると私は感じた。